

【巻頭言】

学生とのジェネレーションギャップを楽しむ

菊池直子

岩手県立大学盛岡短期大学部

被服衛生学部会をけん引し、日ごろから支えてくださっている先生方が多数居られる中、私ごときがいったい何を書けばよいのでしょうかと戸惑いました。図らずも副部会長の任を受けて2年目となり、これもお役目のようですので雑感を綴らせていただきます。

2016年、はじめて電車で「どうぞ」と席を譲られました。見たところ、中学生くらいの礼儀正しいお嬢さんでした。今まで自分は席を譲る側と思い込んでおりましたので、大きな勘違いをしていた自分が可笑しくなりました。中学生から見ると、どう考えてもお婆さんですから、当然の成り行きです。

これをきっかけに、最近、しきりに感じる学生とのジェネレーションギャップも楽しもうと考えるようになりました。もちろん、これまでも学生とのギャップはありましたが、最近、衣服に関して面食らうことが多くなりました。例えば、ある学生に着衣を記録するように言いましたところ「オールインワン」「ニット」という記録がありました。「オールインワンはファンデーション？ ジャンプスーツの間違いでは？」と確認したところ、怪訝そうな表情で「ジャンプスーツって何ですか？」と逆に聞かれました。「ニット」について「ニットは編物のこと。セーター？ カーディガン？」と聞くと、学生にとってセーターやカーディガンは、冬物衣料らしく、それほど厚地ではないものや薄地のものは、ニットと言うとのことでした。ファッションが移り変わることは理解していましたが、アイテム用語も移り変わるとは、気づかず迂闊でした。かつてのアイテム用語は、学生に通じず、学生から教えられることに新鮮さを感じております。

着心地についてもジェネレーションギャップがあるのでしょうか。ある学生に何を着て寝ているかと聞いたところ「高校時代のジャージー」という返答でした。胴部の圧の問題は別にして、寝衣

の素材として受容されていることに驚きました。そういえば、運動着の素材の寝衣が、ホテルでもあったことを思い起こしました。岩手県沿岸部に震災後に建てられた二つの新しいホテルに宿泊したときのことです。両ホテルとも寝衣が、ポリエステル100%の中厚地ジャージーでしたが、私にとっては、ホテル側に苦情を申し出ようかと思うほど不快でした。ところが、同行していた学生たちは、不快ではなかったようです。寝衣も多様化する今の時代、苦情を言えば、私はただのクレマーに見えるでしょう。結局、苦情を言わずに帰ってきました。この着心地の感じ方の違いは、修学旅行でジャージーを寝衣にする世代との違いでしょうか。小中高時代にジャージーに慣れ親しんだ時間の差でしょうか。ジャージーは運動着という固定観念の有無の違いでしょうか。ジャージーを寝衣にしている学生から、着心地のジェネレーションギャップを考えさせられます。これからも学生とのギャップは深まる一方と思いますが、新鮮な驚きを楽しみの一つと考えております。

徒然なるままに綴りましたこと、ご寛容くださいますようお願いいたします。

最後になりますが、今年度の家政学会では金城学院大学の先生方にご高配をいただきました。夏季セミナーでは、諸岡晴美先生はじめ実行委員の先生方に大変お世話になりました。そして、公開講座では、間瀬清美先生はじめ実行委員の先生方に大変お世話になりました。深く感謝いたします。

人間の健康と福祉に貢献するに被服衛生学部会の活動が、未来に向かってますます発展することを祈念しております。

<連絡先>

〒020-0693 岩手県滝沢市菓子152-52
岩手県立大学盛岡短期大学部 菊池 直子
電話：019-694-2938 FAX：019-694-2939
eメール：nkikuchi@iwate-pu.ac.jp